

# 臨床指標に関する国内外の取組について

1. 各団体担当者への趣旨説明・ヒアリングについて
2. 医療の質指標に関する海外の取組概要

# 臨床指標に関する国内外の取組について

1. 各団体担当者への趣旨説明・ヒアリングについて
2. 医療の質指標に関する海外の取組概要

# 各団体担当者への趣旨説明・ヒアリングについて

“医療の質向上のための体制整備事業”の開始にあたり、既に“医療の質の評価・公表等推進事業”に参加する各団体担当者へ本事業の趣旨説明及びヒアリングを行った。

月日	訪問先
6月 5日 (水)	全日本民主医療機関連合会
6月 11日 (火)	独立行政法人地域医療機能推進機構
6月 13日 (木)	独立行政法人国立病院機構
6月 24日 (月)	公益社団法人全国自治体病院協議会
7月 2日 (火)	公益社団法人 全日本病院協会
7月 3日 (水)	一般社団法人日本病院会 一般社団法人 日本慢性期医療協会
7月 5日 (金)	公益社団法人 日本看護協会
7月 18日 (木)	独立行政法人労働者健康安全機構
7月 19日 (金)	日本赤十字社
7月 24日 (水)	社会福祉法人恩賜財団済生会

# 具体的な取組の共有・普及／中核人材のあり方

(参考資料2) #1-3参照

- 各施設の質改善活動を組織的に支援する団体がある。一方、リソース不足等により手厚い支援が実施できなく課題とする団体もある。
- 継続した質改善活動を組織的に支援する仕組みを検討してはどうか。
- 実務者及び管理者それぞれに応じた研修プログラムを検討してはどうか。

- 全施設にQM委員会を設置しPDCA事業を実施するという組織的な活動を進める団体がある。
- 担当者の異動により活動が定着しないなど、属人的な対応となっている事例も示唆された。
- 団体主催の学会や年次の報告会などで事例の共有を行っている。
- 団体内の専門職種ごとの会議や担当者ベースで情報共有を図るなどの工夫もある。

- 質指標に焦点をあてた研修プログラムとして実務者向けの研修を実施している団体がある。
- 人材育成の課題は認識しているが、そこまで対応できないという意見も一部である。
- 以前はトップ層へのセミナー（説明会）を行っていたが、今は実施していない場合が多い。

## [課題1-1]

### 継続した質改善活動を実装するための仕組みの検討

- 臨床指標を活用し継続した質改善サイクルを回すための仕組みを検討する必要があるではないか。
- 経験・ノウハウを共有するための仕組みを検討する必要があるのではないか。

## [課題1-2]

### 質改善に資するコンピテンシーの検討

- 医療の質向上に向けた実務者を養成するための人材養成プログラムを検討する必要があるのではないか。
- 実務者の継続した質改善活動を理解し支援するためにトップ層を対象としたセミナー及びコンテンツを検討する必要があるのではないか。

# 臨床指標の標準化のあり方

(参考資料2) #4-5参照

- 臨床指標の選定については、各団体独自のアイディア及び検討方法が存在する。
- 標準化を検討するにあたり、臨床指標の概念整理及び選定基準など基盤となる方法論を検討してはどうか。
- これまで検討された臨床指標は貴重な財産であるため、利用価値を高めるために一覧化するなどの仕組みを検討してはどうか。

- 選定にあたっては「データ取得の容易さ」「改善活動の容易さ」などを重視している場合が多い。
- 各団体の性格を反映した特徴的な指標も採用されている。
- 急性期, 慢性期, 地域包括など役割に応じたものを検討して欲しいと要望がある。

臨床指標を検討する際、他団体が採用する指標を参考にしている場合が多い。

## [課題2-1]

### 臨床指標の標準化に向けた方法論の検討

臨床指標の概念・枠組みや選定基準など基盤となる方法論を取りまとめたうえで、標準化を検討する必要があるのではないか。

## [課題2-2]

### 各団体が定義する臨床指標の一覧化

各団体で採用する臨床指標を登録・検索・表示できる仕組みがあると有用ではないか。

# 臨床指標の評価・分析支援のあり方

(参考資料2) #4-5参照

- 臨床指標に基づくデータについては、各団体固有の仕組みで収集を行っている。
- DPCデータに基づく臨床指標については、外部機関等を活用し運用を行っている。
- 今後検討を進める標準化指標については、データの利活用方法を含め収集のあり方について検討してはどうか。

- 情報システムを利用する場合は、相当程度の導入／運用コストが発生している。
- 上記以外については、事務局担当者が提出されたデータのクレンジング等を行い、相当程度の負担が生じている。
- 共通QIセット（福井班）は、既存指標と算出方法が異なるため二重の負担となっている。

## [課題3-1]

### 標準化指標に基づくデータの利活用方法について検討

収集したデータを各施設の質改善活動に繋げるための方策について検討する必要があるのではないか。

## [課題3-2]

### 標準化指標のデータ収集方法について検討

各団体それぞれで臨床指標に基づくデータの収集システムを構築・運用していることを踏まえ、今後どのように標準化指標に関するデータを収集すればよいか検討する必要があるのではないか。

# 臨床指標に基づくデータの公表について

(参考資料2) #4参照

- 臨床指標に基づくデータの公表については、年次報告書を作成し各団体のWEBサイト上に掲載をしている。
- 公表するデータについては、利用者像を明確にしたうえで意図に見合う内容及び公表方法を検討してはどうか。
- また公表するデータの社会的位置づけについても検討してはどうか。

- 四半期ごとにデータを集計し参加施設へフィードバックを行っている。
- 年次報告書を作成し各団体のWEBサイト上で公表をしているが、限定した内容としている場合がある。
- 臨床指標に基づくデータの公表については、活動実績の報告に留まっている。公表することの意義等については未だ議論が成熟できていない。

## [課題4]

### 公表のあり方や社会的位置づけの検討

- 公表データの利用対象者を明確にし、各対象者の意図に見合った公表内容、公表方法などを検討する必要があるのではないか。
- また、公表データの社会的位置づけについても検討する必要があるのではないか。

# その他（本事業の発展に向けて）

- QI事業は各団体の事業計画において明文化及び予算化がされている。一方、事業参加施設数の伸び悩みが近年の課題となっている。
- 本事業の発展に向け、参加施設数を増やすための施策についてどのような取組が必要であるか。
- 安定した事業基盤を構築するためにはどのような取組が必要であるか。

- QI事業を中長期計画の中で位置づけ、予算化がされている。
- QI事業への参加を任意とする団体では、近年、参加施設数が横ばいとなっている。
- 中小規模の病院の参加が少ない。
- 急性期以外の病院では作業負担のため事業参加のハードルが高いとの意見があった。

## [課題5-1] 参加施設の増加に向けた検討

今後参加施設数を増やしていくためには、どのような取組が必要か。

## [課題5-2] 安定した事業運営とするための検討

当事業は補助事業という性格を有するが、今後より充実させ発展していくためにも人材、財政等安定した事業基盤を構築していく必要があるのではないか。



# 臨床指標に関する国内外の取組について

1. 各団体担当者への趣旨説明・ヒアリングについて
2. 医療の質指標に関する海外の取組概要

# 医療の質指標に関する海外の取組概要

(参考資料3) 参照

医療の質指標に関する海外の取組では、質指標の社会的な位置づけとして以下の3類型が認められた。

分類	対象国
1. 病院認可または病院認定との連動	カナダ, フランス, アメリカ, イギリス, オーストラリア
2. 支払制度との連動	フランス, アメリカ
3. 質指標データの情報公開 (公表)	カナダ, フランス, アメリカ, イギリス, オーストラリア

※厚生労働科学研究「医療の質指標に関する国内外レビュー及びより効果的な取組に関する研究 (研究代表者:福井次矢)」  
平成28年度総括・分担研究報告書をもとに作成

# まとめ

実施要綱に示された事項を検討するにあたり、下記の課題等を踏まえて議論する必要がある。

**課題1-1 継続した質改善活動を実装するための仕組みの検討**

---

**課題1-2 質改善に資するコンピテンシーの検討**

---

**課題2-1 臨床指標の標準化に向けた方法論の検討**

---

**課題2-2 各団体が定義する臨床指標の一覧化**

---

**課題3-1 標準化指標に基づくデータの利活用方法について検討**

---

**課題3-2 標準化指標のデータ収集方法について検討**

---

**課題4 公表のあり方や社会的位置づけの検討**

---

**課題5-1 参加施設の増加に向けた検討**

---

**課題5-2 安定した事業運営とするための検討**